

「ジャウィ文献と社会」研究会

坪井 祐司

JAMSの連携研究会である「ジャウィ文献と社会」研究会¹では、主にマレー・インドネシア語のジャウィ文献を利用した研究を行っている。

ジャウィとは、アラビア文字を改変したマレー・インドネシア語の表記法である。マレー・インドネシア語圏では、長いあいだジャウィが書き言葉として使われていた。20世紀に入るとマレー・インドネシア語のローマ字による表記が広く使われるようになるが、その後もジャウィは一部で用いられ、今日に至っている。

本研究会は、これまで研究にあまり活用されてこなかったジャウィ文献を積極的に使うことで、ジャウィ文献が書かれ、読まれていた社会の様子を明らかにすることを目指している。

現在の主な活動内容は以下の二点である。

(1) 「カラムの時代」プロジェクト

『カラム』(Qalam)は、1950～69年にシンガポールで刊行されていたマレー語の月刊誌である。創刊から停刊まで、記事は一貫してジャウィで書かれていた。

『カラム』は1950、60年代のマラヤ/マレーシアのムスリム社会のあり方を知る貴重な資料といえるが、ジャウィで表記されていることもあり、利用可能な研究者が限られていた。

そこで、京都大学地域研究統合情報センター(京大地域研)との連携のもとで、同機関に所蔵されている『カラム』のデジタルデータをもとに記事のローマ字翻字を進めている。現在、本研究

会のホームページでは、創刊号から1954年9月号(第50号)までの記事全文のローマ字翻字を公開し、『カラム』をより多くの研究者に利用可能な形にしている。今後は、京大地域研ホームページで公開されている『カラム』記事データベースとの連結により、記事の全文検索を可能にすることを目指している。

それとともに、研究会では『カラム』の記事をもとに、1950年代から60年代にかけてのマレー世界の「近代」の諸相を明らかにすることを試みている。現在までに『カラムの時代』と題した3編のディスカッションペーパー(研究会メンバーによる論文集)を京大地域研から発行している。

(2) ジャウィ文献講読講習会

本研究会は、ジャウィ文献講読のための講習会を参加者(マレー・インドネシア語の既習者を対象)を一般公募する形式で行っている。2009年から年1回開催してきており、昨年は日本で唯一のマレーシア語専攻をもつ東京外国語大学のファリダ・モハメド講師の協力を得て、同大学にて開催した。

講習会は、初心者から中級まで幅広いニーズに応えられる内容にすることを目指している。昨年講習会用のテキスト『ジャウィを学ぶ』(坪井祐司、山本博之編、ファリダ・モハメド協力、2011年、京大地域研)を作成しており、今後も改良を重ねていく予定である。本年は12月1、2日に東京外国語大学で開催することを予定している。詳細はホームページを参照されたい。

¹ <http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/~yama/jawi/>